

上大類・川押遺跡 2

— 携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009

高崎市教育委員会

上大類・川押遺跡 2

— 携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009


高崎市教育委員会

例 言

- 1 本書は、携帯電話用無線基地局の鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の遺跡名は「上大類・川押遺跡2」である。遺跡番号はNo.439である。
- 3 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市上大類町川押64番地である。
- 4 発掘調査は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の携帯電話用無線基地局建設に伴い、埋蔵文化財の記録保存が必至となったため行うこととなった。
- 5 発掘調査及び整理作業から本報告書の刊行までの費用は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の負担で行った。
- 6 調査体制は、以下の体制で行った。

高崎市教育委員会文化財保護課 山口一郎・須田奈保子・角田真也
有限会社高澤考古学研究所 高階敏昭
- 7 発掘調査は平成21年4月20日から平成21年4月24日までの期間で実施した。調査面積は49㎡である。
- 8 本書の編集作業は高階敏昭が行った。執筆は1が高崎市教育委員会の山口一郎、その他を高階敏昭が行った。
- 9 発掘調査・整理作業に伴い、各作業を以下のとおり委託した。
 - ・基準点測量作業は田中隆明に、遺構平面図、断面図の作成は田中隆明・山際哲章に委託した。
 - ・デジタル編集作業及び遺物の写真撮影作業は山際哲章に委託した。
- 10 発掘調査及び整理作業に従事された作業員は以下のとおりである。(敬称略、50音順)
大竹 節・澤田美枝子・深田恵美・関口佳紀・内山久男。
- 11 本書作成にあたり多くの方々のご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表するものである。(敬称略、50音順)
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店・株式会社協和エクシオ・秋本太郎・笹澤泰史・澤田修・
澤田福宏・高階宜男・富岡昭晴・山下工業株式会社。
- 12 本調査で収集した資料及び出土遺物は一括して高崎市教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 本書に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図『前橋・高崎』、日本地図センター発行明治前期測量2万分1フランス式彩色地図を80%縮小、国土地理院発行の1/2,500を使用した。
- 2 遺構平面図の北方向は座標北方向を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 3 本書に掲載した各遺構図、遺物実測図、遺物写真の縮尺は各図下に記載した。
- 4 土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所監修『新版標準十色帖』を参考にした。
- 5 実測土器の中で口縁部の残存率が1/2未満の為、復元実測をしたものは、土器内面の口縁部線の中軸線から離して実測図を作成している。
- 6 遺物観察表の計測値の〈 〉は残存値を表す。
- 7 遺物番号は、図面・写真図版、観察表ともに統一してある。
- 8 本報告書の本文、土層注記で使用した火山噴出物は、浅間A軽石：As - A、1783年降下。浅間B軽石：As - B、1108年降下。EP軽石：榛名山二ツ岳降下軽石(Hr - FP)：6世紀中頃。FA軽石：榛名山二ツ岳降下火山灰(Hr - FA)、6世紀初頭頃降下。浅間C軽石：As - C、3世紀後半。浅間YP軽石：浅間板鼻黄色軽石(As - YP)、約13,000年前降下。
- 9 遺構平面図の旧河川跡で使用したトーンはである。

目 次

例言

凡例

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の立地と環境	4
IV 基本堆積土層	6
V 検出された遺構と異物	8
VI まとめ	11
抄 録	
参考文献	
写真図版	

挿図目次

第 1 図 遺跡の位置と周辺遺跡図	2
第 2 図 遺跡の位置図	2
第 3 図 基本堆積土層柱状図	6
第 4 図 遺跡位置図	6
第 5 図 遺構平・断面図	7
第 6 図 出土遺物図	10

表目次

第 1 表 周辺遺跡一覧表	3
第 2 表 周辺の中世城館詳細表	5
第 3 表 遺物観察表	9

写真目次

PL. 1 遺跡遠景 北東から 調査区全景 北西から	PL. 3 1号溝 底面状況 西から 1号上坑 全景 北から 2号土坑 全景 北東から 旧河川跡 堆積状況 北西から 旧河川跡 堆積状況 北から 基本堆積土層 1 (調査区北東隅) 南から 重機稼動状況 北から 作業風景 南東から
PL. 2 1号堀 セクション 西から 1号堀 底面状況 西から 1号堀東側 礫出土状況 西から 1号堀西側 鉢・礫出土状況 東から 1号堀 鉢出土状況 南西から 1号堀 片Li鉢山上状況 南西から 1号堀 鉢山土状況 北西から 1号溝 セクション 西から	PL. 4 出土遺物写真

I 調査に至る経緯

1. 調査の方法

平成20年11月、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に携帯電話用無線基地局建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地周辺には原菅宿人類学発掘事業に伴い調査された天田・川押遺跡が所在し、古代～中近世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、1事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年12月3日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年12月15日に工事予定地の試掘調査を実施し、中世の溝・堀遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成21年4月16日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年4月17日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 調査の方法と経過

1. 調査の方法

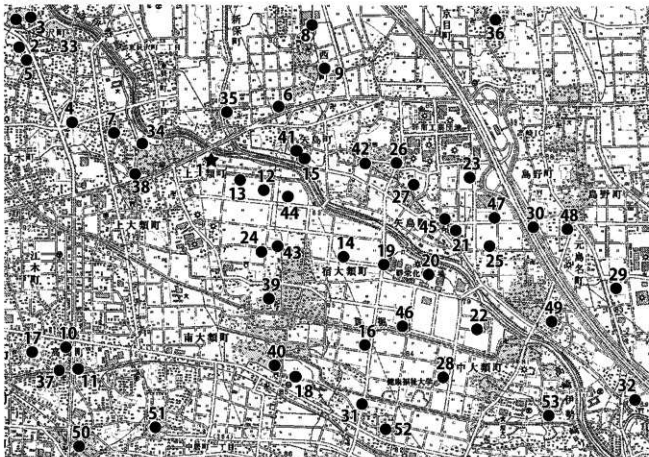
調査対象面積は鉄塔建設により埋蔵文化財の保存が必要となる49㎡が対象となる。高崎市教育委員会が行った試掘調査の結果、溝等の遺構の存在が明らかになった。遺構の確認面は、表上下約50cmのFA泥流面を確認することができる。

表上除去作業は、重機を使用し、残土は調査区脇に排土置場を設定した。座標は、世界測地系第IX系を使用した。遺構確認は、ジョレン等で行い、遺構の掘り下げは移植ゴテを基本とし、適時必要に応じて鍬・スコップを使用した。調査は、遺構毎に土層の観察を行うため、ベルトを設定して掘り下げ作業を行った。遺構は掘り込み面または、確認面を把握する為、調査区壁で土層の観察を行った。遺構平面図は、器械測量で行った。底面や下層から出土した遺物は、器械測量で位置を計測しNoを付して取り上げた。覆上中の遺物は遺構毎に一括で取り上げた。写真撮影は35mmカラーリバーサルフィルム、同モノクロフィルム、デジタルカメラの3種類を使用した。

2. 調査の経過（平成21年4月20日～4月24日）

- 平成21年4月20日 発掘調査を開始する。プレハブ・トイレ・発掘器材・資材等の搬入。安全対策作業。重機搬入、表上除去を行う。堀1条・溝1条、土坑2基を確認する。
- 4月21日 堀・溝・土坑の掘り下げ作業。写真撮影。
- 4月22日 堀・溝・土坑の掘り下げ作業。写真撮影。
- 4月23日 測量作業を行う（各遺構の平面図・断面図）。基本堆積土層の調査を行う。
- 4月24日 遺構確認面以下の堆積状況の確認の為、重機にてトレンチ掘りを行う。プレハブ・トイレ・発掘器材・資材等の撤収作業。重機で埋め戻し作業後撤出。発掘作業を終了する。

Ⅲ 遺跡の立地と環境



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡図 (国土地理院発行 1/25,000 を使用)



第2図 遺跡の位置図

(日本地図センター発行 明治前期測量 2万分1 フランス式彩色地図を80%縮小し使用)

第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	発出された遺構	報告書及び文献
1	上大塚・川神遺跡2	本遺跡	本岸	本書所収遺跡
2	久並神社	古墳	前方後円墳	1972 『櫻白書』
3	其石ノ遺跡	古墳	祭壇遺構、石製土	1994 『其石ノ遺跡』 高崎市教育委員会第131集
4	丹波神社遺跡	古墳、奈良・平安、近世	河内石、磨盤石、平安住居、奥石遺構	1986 『丹波神社遺跡』 高崎市教育委員会第74集
5	竹野前土師遺跡	古墳		1972 『群馬県遺跡報告』
6	新倉八反遺跡	平安	B軸石下水田、古代築碁	1984 『新倉八反遺跡』 高崎市教育委員会第158集
7	上人類草遺跡	古墳、奈良・平安	古墳～平安住居、石礎、勾玉	1985 『上人類草遺跡』 高崎市遺跡調査会第8集
8	西大塚ノ沢遺跡	弥生、古墳	弥生環壕遺構、古墳住居、祭壇土坑	1990 『西大塚ノ沢遺跡』 高崎市教育委員会第102集
9	高島遺跡第IV	縄文、古墳、奈良・平安	方形環壕遺構、平安住居、築込柱建物、古代小竈遺構	1987 『高島遺跡第IV』 高崎市教育委員会第76集
10	高島南沖・村前遺跡	弥生～中世	弥生住居、中世遺構、石礎、中世フイロ割口	1995 『高島南沖・村前遺跡』 高崎市教育委員会第135集
11	高島南沖遺跡	弥生、中・近世	弥生環壕、中・近世遺構、高麗瓦葺	1995 『高島南沖遺跡』 高崎市教育委員会第116集
12	久良田遺跡	奈良・平安、中世	奈良・平安住居、B軸石下水田、中世館跡、五輪塔、板碑、大田	1984 『久良田遺跡』 高崎市教育委員会第48集
13	天川・川神遺跡	縄文～中世	縄文中期、奈良・平安住居、B軸石下水田、八幡碁、石帯	1983 『天川・川神遺跡』 高崎市教育委員会第41集
14	山崎・天神遺跡	縄文、奈良・平安	縄文前期、奈良・平安住居、竪穴柱建物、B軸石下水田、新厩、平塚	1981 『山崎・天神遺跡』 高崎市教育委員会第56集
15	久良田村西・麻波遺跡	縄文～中世	縄文中期、後附、古墳、奈良・平安住居、館跡、板碑、久良田水田	1986 『久良田村西・麻波遺跡』 高崎市教育委員会第71集
16	高島南沖・能登遺跡	縄文～平安	方形環壕遺構、竪穴柱建物、古墳、奈良・平安住居、B軸石下水田	1997 『高島南沖遺跡』 高崎市教育委員会第148集
17	高島南遺跡第I	古墳～平安	古墳～平安住居、竪穴柱建物、井戸、水田、中世館跡、月戸	2000 『高島南遺跡第I』 高崎市教育委員会第244集
18	南大塚村南遺跡	平安、中世	住居、中世遺構、五輪塔	1994 『南大塚村南遺跡』 高崎市教育委員会第131集
19	天神久保遺跡	縄文、平安	縄文前期、平安住居、B軸石下水田、土器玉	1985 『天神久保遺跡』 高崎市教育委員会第64集
20	方相寺遺跡	縄文～中世	縄文中期、後附、弥生前期、古墳前期住居、中世遺構、B軸石下水田	1985 『方相寺遺跡』 高崎市教育委員会第66集
21	野ノ宮遺跡	縄文、奈良、古墳、奈良・平安、中世	縄文中期、後附、弥生前期、古墳前期、平安住居、弥生中期後半土器、前方後円形環壕、磨盤石、古石、古瓦、古銅、古刀、古鏃	1978 『野ノ宮遺跡』 高崎市教育委員会第4集
22	清田山遺跡	縄文～中世	方形環壕遺構、弥生前期、新石器式古墳、古家住居、奈良・平安住居、古瓦、多粒石下水田、中世館跡	1997 『高島南遺跡第II』 高崎市教育委員会第35集
23	元馬石ノ沢遺跡	縄文、古墳、平安、中世	水田、縄文分銅形の尖頭器	1995 『元馬石ノ沢遺跡』 高崎市遺跡調査会第39集
24	野ノ宮内村西遺跡	縄文～中世	縄文中期、弥生前期、平安前期、方形環壕遺構、古墳、古瓦、古銅、五輪塔、土器玉、古刀、古鏃	1987 『野ノ宮内村西遺跡』 高崎市教育委員会第75集
25	元馬名遺跡	縄文～古墳、中世	縄文中期、後附、弥生前期、方形環壕遺構、古墳、古瓦、古銅、古刀、古鏃、古瓦、古銅、古刀、古鏃、古瓦、古銅、古刀、古鏃	1979 『元馬名遺跡』 高崎市教育委員会第6集
26	久良田之内遺跡	奈良、平安	方形環壕遺構、倉庫跡、弥生前期住居、弥生中期後半土器、平安・平安	1988 『久良田之内遺跡』 高崎市遺跡調査会第86集
27	久良田東遺跡	弥生～古墳、平安、中世	弥生住居、古墳住居、溝、土坑	1994 『久良田東遺跡』 高崎市遺跡調査会第27集
28	川大塚内田遺跡	平安、中・近世	水田、土坑、洞状遺構	2000 『川大塚内田遺跡』 高崎市遺跡調査会第81集
29	山崎中町遺跡	古墳、平安、中世	F A 下水田、B軸石下水田、中世古墳	1992 『山崎中町遺跡』 高崎市教育委員会第120集
30	元馬石ノ沢遺跡	縄文、奈良・平安、中世	竪穴柱建物、五輪塔、板碑	1982 『元馬石ノ沢遺跡』 群馬県縄文文化財調査事業報告書4集
31	南大塚山古墳	古墳	円墳	1972 『南大塚山』
32	南大塚山古墳	古墳	前方後円墳	1972 『南大塚山』

No	遺跡名	報告書及び文献
33	其石ノ遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
34	上人類草遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
35	新倉八反遺跡	1990 新編『高崎市史』資料編3、中世1
36	上京内探沢遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
37	高島南遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
38	長井遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
39	人取城	1987 『新大塚村山遺跡』 高崎市教育委員会第75集
40	大塚城	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
41	久良田城	1985 『久良田村西・麻波遺跡』 高崎市教育委員会第71集
42	久良田町所蔵	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
43	正広の板碑	市指定遺跡
44	村北遺跡	1985 『村北・矢野前・村前遺跡』 高崎市教育委員会第61集

No	遺跡名	報告書及び文献
45	鈴ノ宮所蔵	1978 『鈴ノ宮所蔵』 高崎市教育委員会第4集
46	早ノ塚遺跡	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
47	元馬名城	1979 『元馬名遺跡』 高崎市教育委員会第5集
48	元馬名内田遺跡	1982 『元馬名遺跡』 群馬県縄文文化財調査事業報告書4集
49	高島南遺跡第I	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
49	元馬名内田	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
50	矢野城	1989 『上京内探沢遺跡』 高崎市教育委員会第101集
51	丸茂城	1992 『上京内探沢遺跡』 高崎市教育委員会第122集
51	丸茂城	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
52	早人屋敷	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1
53	南大塚城	1996 新編『高崎市史』資料編3、中世1

1. 地理的環境

本遺跡は、高崎市役所から東に約3kmの井野川と染谷川が合流する付近に位置する。地形を見ると、高崎市の東方を東南流する井野川右岸の低地に位置する。この低地は井野川低地帯と呼ばれ、長さ約10km、幅は1～1.5km程で、帯状に延びている。周辺の地形は、西方には、高崎台地と呼称される台地が、北・東方は、井野川左岸以東に広がる前橋台地が、南方には烏川が流れる。高崎台地との比高差は、烏川との合流地点～紫崎町、矢島町あたりの下流域では、明確な段丘面（急岸）により区分できるが、本遺跡が立地する上流域では、比高差が殆どなく高崎台地と井野川低地帯の境目は不明瞭になる。井野川低地帯は、元々旧利根川の流路で、21,000年前に堆積した前橋泥流を基盤層に形成されている。旧利根川の流路部分は砂層が厚く堆積し、その後、11,000年前に堆積した高崎泥流等の堆積物により、現在の井野川低地帯が形成されている。本遺跡は標高約85mあり、周辺は、微高地と低地が入り組んだ地形をなしている。現在は、微高地では集落や畑が、低地では広大な水田が広がっている。

2. 歴史的環境

本遺跡の周辺では、旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代から中世にかけての遺跡は、各所で確認することができる。

縄文時代を見ると、井野川流域一帯では草創期～晩期までの遺跡が確認されている。草創期は、現在のところ元島名瓦井遺跡(23)で尖頭器が出土しているのみで、遺構は確認されていない。人々の生活の痕跡が顕著に確認できるようになるのは前期からで、以降後期にかけて遺跡数が増加する。集落は、前期は天神久保遺跡(19)、宍大類町村西遺跡(24)で、中期は、天田・川押遺跡(13)、山鳥・天神遺跡(14)、方相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、元島名遺跡(25)で確認されている。さらに矢島村西・増殿遺跡(15)、方相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、元島名遺跡(25)では中期に引き続き後期の集落も確認されている。その他、情報団地遺跡(22)では、遺構は確認されていないが前期～晩期にかけての上器片や石器が、南大類東沖・稲荷遺跡(16)では諸磯b式の竪が出土している。

弥生時代は、本遺跡の南西約4kmに、中期後半の上器群の標準遺跡（竜見町式土器）である竜見町遺跡が存在する。本遺跡周辺の矢島竹之内遺跡(26)、鈴ノ宮遺跡(21)でも中期後半の上器片が確認されているが、遺構は現在のところ確認されていない。後期になると西島相ノ沢遺跡(8)、高岡塚村遺跡(11)で環壕集落が、高岡東沖・村前遺跡(10)、方相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、情報団地遺跡(22)、宍大類町村西遺跡(24)、矢島町薬師遺跡(27)で集落が確認されるようになり、それに伴い南大類東沖・稲荷遺跡(16)、情報団地遺跡(22)、矢島竹之内遺跡(26)で方形周溝墓が確認されている。

古墳時代に入ると遺跡数がさらに増加し、人類地区を中心とした井野川流域では、前期の石田川式土器と畿内系土器が広い範囲で出土している。集落も確認数が増加し大類薬師遺跡(7)、南大類稲荷遺跡(17)、方相寺遺跡(20)、鈴ノ宮遺跡(21)、情報団地遺跡(22)、宍大類町村西遺跡(24)、矢島町薬師遺跡(27)等で確認されている。また、情報団地遺跡(22)の掘立柱建物跡からは炭化米が出土しており、灌漑用水とされる溝も確認されていることから周辺に水田が広がっていた様子が窺える。周溝墓は弥生後期から引き続き各所で確認されており、貝沢町遺跡(4)、西島遺跡群Ⅸ(9)、情報団地遺跡(22)、宍大類町村西遺跡(24)で方形周溝墓や円形周溝墓が確認されている。また、鈴ノ宮遺跡(21)、では検出例の少ない前方後方形周溝墓が確認されている。水田は、後期に入ると井野川左岸の前橋台地上の島野中遺跡(29)でF下水田が確認できる。さらに、本遺跡約3kmの萩原団地遺跡では、後期の水田が広い範囲にわたって確認されていることから、集落の拡大に伴い水田耕作が盛んに行われていた様子が窺える。古墳は、本市で最も古いとされている前方後墳の元島名將軍塚古墳(32)を初め、井野川流域の微高地を中心に数多く築造されている。情報団地遺跡(22)では、5世紀後半～6世紀初頭に築造された帆立貝式古墳、円墳を主体に7世紀代までの古墳が確認されている。その他、周辺には前方後墳の元島神社、円墳の諏訪山古墳(31)が存在する。

奈良～平安時代は、古墳時代よりもさらに集落域が拡大し、それに伴い数多くの水田遺構が確認されるようになる。分布状況は井野川流域の微高地上に集落が、低地部に水田が耕作されているようになり、同一遺跡内から集落遺構と水田遺構がセットで確認される調査事例が数多く見られるようになる。また、新保八坂遺跡(6)、情報団地遺跡(22)では古代の道路跡が確認されており、前代の古墳時代とは社会環境に大きな変化が見られる。本遺跡からは製鉄炉の炉壁片が1点出土している。本遺跡周辺は基より高崎市域からは現在の所製鉄炉は確認されていないが、西島遺跡群Ⅸ(9)からは製鉄炉と関係のある小鍛冶遺構が1軒確認されていることから、製鉄路遺構の存在が推測される。

中世は、本遺跡が立地する井野川流域は、人類系や島名氏の本貫地とされており(1996『新編「高崎市史」資料編3・中世I』)、微高地には中世城館が数多く存在する。本遺跡周辺にも、発掘調査により確認された城館や文献資料等

で以前から周知されている城館の存在が知られている。本遺跡の東方約200mに位置する天田Ⅱ遺跡(12)からは、発掘調査の結果、東西52m、南北約60mと推定される方形館が確認されている。窟は東西で規模が極端に異なり、南掘の一部は南西方に分岐しており、灌溉用水を兼ねていた可能性が指摘されている。館内には掘立柱建物跡2軒、暖穴状遺構が2軒、井戸が5基検出されている。館外の南東部には上城郭が16基集中して確認されており、墓域が形成されている。本遺跡の南東約100mの天田・川押遺跡(13)からは、上城郭が5基確認されており、覆土中から北宋銭が出土している。この遺跡は、本遺跡と天田Ⅱ遺跡との中間地点に位置し、本遺跡との関連性が指摘される。本遺跡の東方約500mに位置する村北屋敷(44)は、発掘調査により東西30m、南北35mの単郭構造の小片館と考えられている。館内には掘立柱建物跡7軒、櫓12基、井戸6基等が確認されている。館外の東側には、掘立柱建物跡9軒、井戸2基、土城墓が4基確認されており、館内と類似した環境が広がっている。館内外の掘立柱建物跡や付随する井戸等の施設は、新旧関係や配置関係などから時期差があり、継続して使用されていた痕跡が認められている。南西方約1.7kmの塚ノ越屋敷(46)は、発掘調査の結果、単郭の方形館と考えられている。館内から掘立柱建物跡は確認されていないが、井戸と思われる土坑が確認されている。堀の覆土中からは、館の廃棄遺物である板碑(1333年:元弘3年)が出土し、館の時期が推測できる。その他、本遺跡の周辺には、南方約700mに大類城、南方約1.2kmに大類氏の居館とされている大類館、南方約2.0kmには反町城が存在する。さらに東方約600mには矢島西城が、西方約1.9kmには元島名城(47)が存在する。

第2表 周辺の中世城館詳細表(1996 新編「高崎市史」資料編3・中世Iより抜粋)

遺跡番号	遺跡名	構造(形状)	土地	時代	規模(南北×東西)	築造者	残存部分	備考
12	天田Ⅱ遺跡(天田館)	単郭	平地、北は天田堀	室町	52×60	—	なし	土層なし。水堀、灌溉用水か。
33	村北屋敷新井屋敷	複郭	北は土小池	戦国	210×150	新井康重之助	土塀・堀	堀外壁の外壁か。
34	上大新井屋敷	複郭か、環濠単郭	井野川右岸の崖	16世紀	不明×200	新井氏(新井開府)	土塀・堀	堀外側に土塀残の礎石遺跡あり。
35	下新保屋敷遺跡	環濠単郭	谷谷川と井野川の合流点	戦国	—	小堀氏、反町氏等	—	有力農民の居館。
36	上京村屋敷	環濠単郭(複郭)	平地	戦国	250×240	保沢氏	堀	—
37	高岡屋敷	複郭(複郭)	平地、南は地蔵堀	戦国	170×110	角田氏	堀	—
38	比井屋敷	環濠単郭	平地、北は新井屋敷	16世紀	85×75	比井氏	なし	上人堀開遺跡の環濠跡の型。
39	大鏡城	複郭(複郭)	一翼堀川が溝内	戦国	400×400	新田氏	土塀・堀	堀内城の外壁か。
40	大類館	単郭	平地、北は一翼堀川	15世紀	200×150	大類氏	堀	大類氏の小館。
41	久口西城	複郭(単郭)	井野川の麓高地	室町	150×130	足利氏か	なし	—
42	矢島反町屋敷	複郭	台地南端部	戦国(大正年間)	150×100	反町氏	堀	—
43	正徳の板碑	—	—	正徳5年(1292年)	—	—	—	堀記板石
44	村北屋敷	単郭か	平地	室町	30×35	—	なし	単郭構造の可能性あり。
45	鈴ノ河屋敷	単郭	井野川右岸崖端	—	50×63	不明	なし	成土層の6枚。板碑出土。
46	塚ノ越屋敷	単郭(方形館か)	平地、井野川近い	14世紀か	—	—	なし	堀から板碑(1333年)出土。
47	元島名城 (元島外環濠遺跡)	複郭(複郭)	井野川北岸	戦国	500×480	水戸(長井)豊前守政友	なし	堀より古い様相を示す方形築の環濠跡あり。
48	島野屋敷遺跡	環濠単郭	平地	16世紀	210×210	阿久沢氏か	堀	—
49	元島名内山	複郭	井野川右岸崖端	16世紀	160×140	阿久沢氏か	堀・土塀	元島名城の出城。
50	反町城	複郭(複郭)	平地、北は長井堀	戦国	215×120	反町氏	水堀	堀地に附了堀。中世〜近世まで存続。
51	九沢屋敷	複郭(環濠)	平地	室町	130×110	丸茂氏	水堀	—
52	奉天屋敷	複郭(複郭)	平地	16世紀(天文年間)	90×110	原田氏	なし	方形型か。北東隅欠け、堀内除けか。
53	陶器屋敷	複郭・環濠	長井川支流左岸の河原	室町	130×50	高井氏	土塀・堀	—

IV 基本堆積土層

本遺跡は、井野川右岸から南に約20m離れた低地帯に位置する。現在、周辺は一面水田化され、約300m西方には集落が広がる。本遺跡の基本堆積土層はI～XI層に分層できる。I・II層は近・現代の開発等により攪拌されていた層位で、主に水田や畑地に利用され、調査区の全域に堆積する。遺物は、現代から古代までの土器片が少量混入する。IV層は旧河川跡である。V・VI層は、F A泥流層で、それぞれ中世段階の遺物確認面になる。間層を挟み現地表面下約1mには約11,000年前に堆積した高崎泥流層(X層)を確認することができる。層厚は約1.6mを測る。X層下には1.3万年前に降下したYP軽石(浅間板昇黄色軽石)の堆積は認められなかった。XI層は礫層で現地表面下、約2.6mで確認した。旧利根川の河床面と思われる。



基本堆積土層 2

I層 新井上
II層 山形沖
III層 染色土
IV層 古い黄褐色シルト

V層 暗褐色土

VI層 古い黄褐色シルト

VII層 古い黄褐色シルト

VIII層 黄褐色シルト

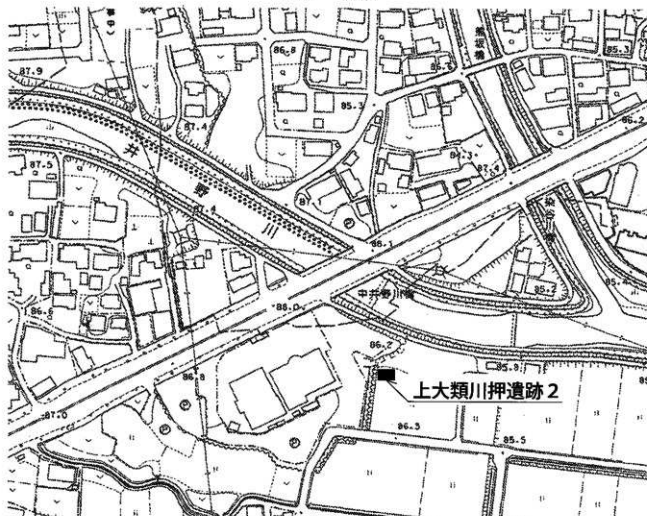
IX層 黄褐色シルト

X層 高崎泥流層

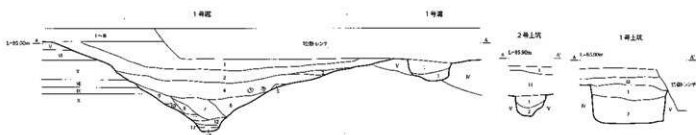
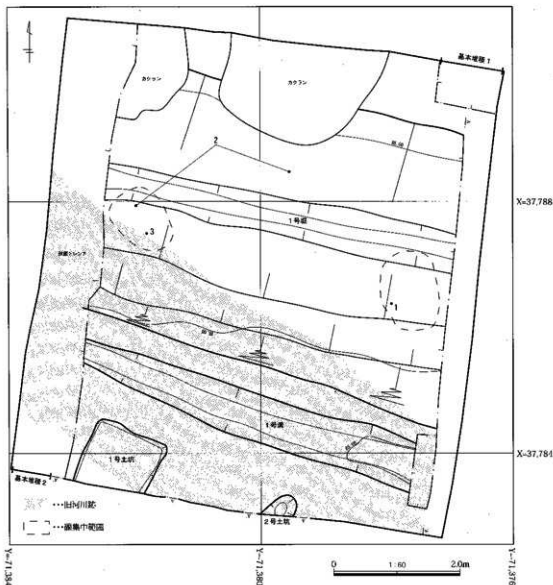
XI層 利根川

しまり やや軟、粘性 普通、浅間A・H軽石を少量含む。
しまり、粘性ともにやや強、旧河川跡。調査区中央～右側に堆積する。現地表面下約20cm～40cmで確認できる。厚さ約10cmの礫層が部分的に交互に堆積する。F A泥流を少量含む。堤上から約750mの半蔵川が調査区上する。F A泥流の堆積が確認できないことからF A泥流前に形成されたものと思われる。調査区中央～右側の遺物確認面である。
しまり、粘性ともに弱、F A泥流層。泥流層の上層が地酸化し黒化したものと思われる。調査区中央～右側の遺物確認面である。調査区中央～右側の遺物確認面である。調査区中央～右側の遺物確認面である。
しまり、粘性ともにやや強、F A泥流層。遺物の状況はV層と同様である。
しまり やや軟、粘性 普通、浅間C軽石を少量含む。遺物は出さなかった。
しまり、粘性ともにやや強、遺物は出さなかった。
しまり、粘性ともに強、高崎泥流層。遺物は出さなかった。
堤上から約2.6m下で確認することができる。厚さ約20cmの川原石が厚く堆積する。旧利根川の河床面と考えられる。

第3図 柱状図



第4図 調査区位置図 1/2,500



- | | |
|--|---|
| <p>1号溝</p> <p>1. 黒褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色粘土を微量含む。</p> <p>2. 黒褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを僅に少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。</p> <p>3. 粘褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを僅に少量含む。</p> <p>4. 暗褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを僅に少量含む。</p> <p>5. にごり黄褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色土をやや多量に含む。</p> <p>6. 黄褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色土をやや多量に含む。土層で最大一帯大の河原石を多く含む。本館に平ら遺物を比較的多く含む。</p> <p>7. 粘褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを僅に少量含む。6層同様。上層で最大一帯大の河原石を多く含む。本館に平ら遺物を比較的多く含む。</p> <p>8. 黒褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色土を少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。</p> <p>9. 黒褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色土を少量含む。</p> <p>10. 黒褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色土を少量含む。旧河川跡のF P軽石を微量含む。</p> <p>11. 黒褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色土を微量含む。</p> <p>12. 褐色シルト
しまり 強。粘性 普通。黄褐色土を微量含む。12層の遺物を多く含む。</p> <p>13. 粘褐色土
しまり、粘性 普通。黄褐色土を少量含む。黄褐色シルトブロック(灰褐色)を微量含む。</p> <p>14. 粘褐色シルト
12層よりも細粒化が進んでいる。</p> | <p>1号溝</p> <p>1. 黒褐色土
しまり やや強。粘性 普通。旧河川跡のF P軽石、黄褐色土を微量含む。</p> <p>2. 黄褐色土
しまり、粘性 やや強。旧河川跡の遺土である黄褐色シルトブロックを少量含む。</p> <p>1号土坑</p> <p>1. 黄褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを微量含む。</p> <p>2. 黄褐色土
しまり やや強。粘性 普通。黄褐色粘土・フエツクを少量含む。</p> <p>2号土坑</p> <p>1. 黄褐色土
しまり、粘性ともに普通。旧河川跡のF P軽石を微量含む。旧河川跡の層土である砂質土を少量含む。</p> <p>2. 黄褐色土
しまり、粘性ともに普通。旧河川跡のF P軽石を微量含む。旧河川跡の層土である砂質土を少量含む。黒色粘土ブロックを微量に微量含む。</p> |
|--|---|

第4図 遺構平・断面図(1/60)

V 検出された遺構と遺物

1. 堀

1号堀（遺構：図面第4図、PL. 2 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

位置 調査区の中央部をほぼ東西に走る。南隣には1号溝がほぼ並走する。 **規模** 検出長7.10m、幅4.60m、深さ1.15cmである。 **断面形態** 栗臼状。傾斜角度は、北側に比べ南側は比較的緩やかに立上る。 **主軸方向** N 72°Wで、ほぼ直線的に延びる。 **覆土** 14層に分層できる。1～5層（上層）はレンズ状堆積の自然埋没土である。6層～10層（中層）は北方から流入したと思われる斜位の堆積である。人為的な埋戻し土の可能性が高い。11～14層（下層）は水平堆積の自然埋没土と思われる。13層は鉄分を多量に含む。その上下層の12層・14層（最下層）は腐食層で、僅かであるが滲水の痕跡を示す。一時的（季節的）な現象の可能性が考えられる。空堀であった可能性が高い。水流の痕跡は認められなかった。 **底面の状況** 全体的に多少の凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。

遺物 土師器・埴輪・灰釉陶器・軟質陶器片等が少量出土している。1～5層（上層）は、外部からの流れ込みである円筒埴輪片（8）、灰釉陶器坏片（9）が各1点出土している。6層～10層（中層）から出土する遺物は、14～15世紀に限定され、軟質陶器片口鉢片（1）、鉢片（2・5・6）、軟質陶器内耳鍋（4・7）が出土している。東・西端部では、拳大～頭人の川原山が崩壊して出土している。その他、古代製鉄炉の炉壁（3）が出土している。11～14層（下層）からは、遺物は出土しなかった。 **重複関係** なし。F A泥流堆積後に形成された旧河川跡を掘り込んでいる。 **時期** 覆土の特徴や出土した遺物の状況から15世紀前半には廃絶されたものと思われる。

2. 溝

1号溝（遺構：図面第4図、PL. 2・3 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

位置 調査区南側、1号堀の南隣に位置しほぼ並走する。 **規模** 検出長7.10m、幅0.80m、深さ35cmである。 **断面形態** 台形状。 **主軸方向** N 72°W。 **覆土** 2層に分層できる。ほぼ水平堆積の自然埋没土である。僅かに砂質土が含まれるが水流や腐食層の痕跡は認められない。 **底面の状況** 1号堀と同様に全体的に多少の凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。 **遺物** 土師器・軟質陶器片が微量出土している。小破片で器種が特定できない遺物が殆どである。本遺溝に伴う遺物ではないが土師器の羽釜片と思われる遺物（10）が1点出土している。 **重複関係** なし。F A泥流堆積後に形成された旧河川跡を掘り込んでいる。 **時期** 1号堀との配置関係、覆土の特徴、軟質陶器が出土していることから1号堀とほぼ同時期に廃絶された溝と思われる。

3. 上 坑

1号上坑（遺構：図面第4図、PL. 3）

位置 調査区南西端部に位置する。 **平面形態** 南側が調査区外の為、確定的ではないが長方形と思われる。 **断面形態** 箱形。 **規模** 長径1.15m以上、短径1.12m、深さ63cmである。 **主軸（長軸）方向** N 24°E。 **覆土** 2層に分層できる。水平堆積の自然堆積土である。 **遺物** 軟質陶器片が微量出土している。 **重複関係** なし。 **時期** 覆土の特徴や出土した遺物から中世と思われる。

2号上坑（遺構：図面第4図、PL. 3）

位置 調査区南端部に位置する。 **平面形態** 南側が調査区外の為、確定的ではないが長楕円形と思われる。 **断面形態** U字状。 **規模** 長径0.51m以上、短径0.37m、深さ33cmである。 **主軸（長軸）方向** N 46°E。 **覆土** 2層に分層できる。レンズ状堆積の自然埋没土である。 **遺物** 軟質陶器片が微量出土している。 **重複関係** なし。 **時期** 覆土の特徴や、出土した遺物から中・近世と思われる。

4. 旧河川跡

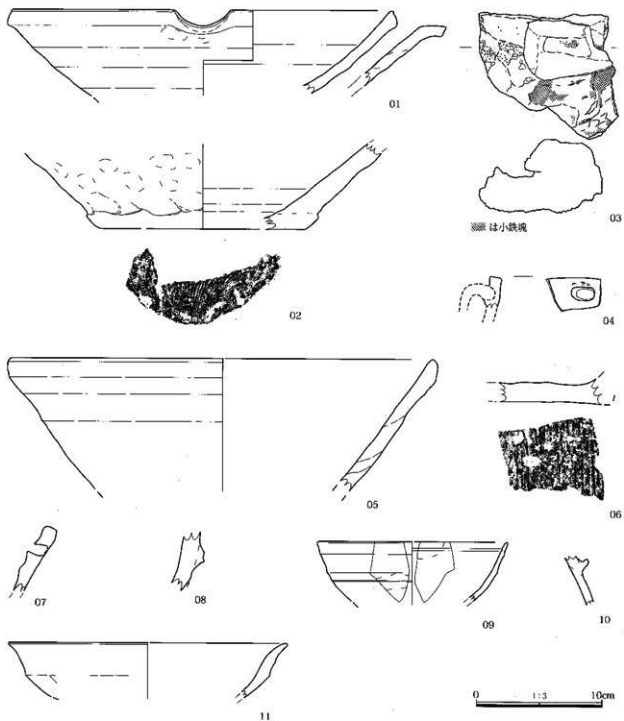
旧河川跡（遺構：図面第4図、PL. 1 遺物：観察表第3表、図面第6図、PL. 4）

位置 調査区中央～南側に位置する。北側約20mに位置する井野川とほぼ並走しているため、旧河川に関連した河川の可能性が考えられる。 **規模** 確認面において検出長7.40m、幅3.40m、深さ77cmである。 **断面形態** 不明。 **主軸方向** N 56°Wである。 **覆土** 確認した範囲で10層に分層できる。レンズ状又は水平堆積の自然埋没

上と思われる。中層～下層にかけては、間層を挟み腐食層とラミナ状の堆積が確認でき滞水、流水を繰り返している。覆土中にはFP軽石を少量含む。遺物・7世紀代の土師器片が微量出土している。(11)は大型の上師器環である。重複関係 1号層、1号溝より古い。FA泥流層より新しい。時期 覆土の特徴や出土した遺物から古墳時代後期(7世紀代)には埋設していたものと思われる。

第3表 遺物観察表

遺物番号	遺物名	種類	器種	出土層位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土		備考		
								調整・文様等	色調			
1	1号堀	軟質陶器	片口鉢	中層	30.8	—	(6.8)	外面 内面	ロクロ整形、片1部折押え。 ロクロナデ、片1部円柱状工具で押出し、体部なめらか。 ロクロ整形後指ナデ、体縁部下部回転ナデ。 ロクロナデ、体部なめらか。 伊壁部分は胎土粗く、又号を多量に含む。 上部を除き強く滓化し黒色ガラス化する。径1～2cmの小鉄塊が付着し、滓化する。 ロクロ整形後ヨコナデ。	黄灰色	細・白	口縁部～体部片。
2	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	—	16	(6.8)	外面 内面 外面	ロクロ整形、片1部折押え。 ロクロナデ、片1部円柱状工具で押出し、体部なめらか。 ロクロ整形後指ナデ、体縁部下部回転ナデ。 ロクロナデ、体部なめらか。 伊壁部分は胎土粗く、又号を多量に含む。 上部を除き強く滓化し黒色ガラス化する。径1～2cmの小鉄塊が付着し、滓化する。 ロクロ整形後ヨコナデ。	灰色	細・白	底部左回転切り痕あり。底部～体部片。
3	1号層	製鉄炉の伊壁	中層	幅 11.0 厚さ 3.5	—	—	(10)	内面	上部を除き強く滓化し黒色ガラス化する。径1～2cmの小鉄塊が付着し、滓化する。 ロクロ整形後ヨコナデ。	灰色	スリ穴あり	上部が壁の一部は内面側に折曲る。折曲り部分厚さ5.8cm。
4	1号堀	軟質陶器	内耳竈	中層	—	—	(2.6)	外面 内面	耳部断面隅丸方形、耳部差込みあり。 ロクロ整形。 ロクロナデ、体部上部にハゼ。	オリーブ黒	細・白	焼し焼。1口縁部片。
5	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	34	—	(10.5)	外面 内面	ロクロ整形。 ロクロナデ、体部上部にハゼ。 下部に磨減。	にぶい黄褐色	細・白	口縁部～体部片。
6	1号堀	軟質陶器	鉢	中層	—	—	(2)	内面 外面	底部に使用に伴う磨減痕あり。 紐作り後、ロクロ整形。体部にすず付着。	灰色	細・白	取口状圧痕あり。底面片。
7	1号堀	軟質陶器	内耳竈	中層	—	—	(5.5)	内面 外面	ロクロナデ。 突帯は断面台形状、磨減してハゲ目は不連続。 ヘラナデ。 ロクロ成形。 ロクロナデ、口縁部に沈線あり。	にぶい黄褐色	細・白 灰	内耳部差込み痕。口縁部片。
8	1号層	埴輪	円筒?	上層	—	—	(4.7)	内面 外面	ロクロナデ。 突帯は断面台形状、磨減してハゲ目は不連続。 ヘラナデ。 ロクロ成形。 ロクロナデ、口縁部に沈線あり。	にぶい褐色	細・白 石	破片。
9	1号層	灰釉陶器	碗	上層	—	—	(4.7)	内面 外面	ロクロナデ。 ロクロナデ、口縁部に沈線あり。 ロクロ整形後、鈎貼付け。 ロクロナデ。	灰白色	極細	施釉方法ハケ塗り。口縁部～体部片。内面はにぶい黄褐色。破片。
10	1号溝	土師器	羽釜?	上層	—	—	(4)	外面 内面	ロクロナデ。 ロクロナデ。 口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。	外面は黒色	細・白	破片。
11	旧河川	土師器	環	上層	—	—	(4.3)	外面 内面	口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 ヨコナデ。	褐色	極細・白	口縁部片。大型品である。



第6図 出土遺物図

VI まとめ

古代製鉄炉の炉壁について

今回の調査で、1号堀の覆土中から古代製鉄炉の炉壁片が出土した。出出した炉壁片の特徴を見ると、外面は胎土が粗くササ等の混和材を多量に入れ強度を増し、被熱を受けて固く締まっている。内面は、上部1/4は還元を受けて青灰色に変色し、下部3/4は強く還元し黒色ガラス化（黒曜石に似る）し、径約1~2cmの小鉄塊が数多く付着し錆化している。古代製鉄炉は箱形炉と壟形炉に分類され、さらに炉形の特徴から県内では宮ノ沢型と西浦北型に細分される[穴沢 1987]。前述した特徴から、本遺跡の炉壁片は壟形製鉄炉の宮ノ沢型の炉壁の可能性が考えられる。^(註1)

県内の古代製鉄炉遺構の分布を見ると、前橋市の乙西尾引遺跡、伊勢崎市の今井見切塚遺跡、藤岡市の下日野金井窯跡、安中市の戸谷遺跡、太田市の菅ノ沢遺跡など、50基程が確認されているが、高崎市域では炉壁片を含め製鉄炉遺構の可能性を示す遺構や遺物が確認された報告事例はない。しかし、本遺跡から北西約1kmに位置する西島遺跡群IV（新保地区）からは製鉄炉とセット関係にある小鍛冶遺構（精錬・鍛錬遺構）が1軒^(註2)確認されていること、本遺跡の南東約100mに位置する大田・川押遺跡からは平安時代の住居を主体に約80軒確認されており、隣接地に平安時代の大集落が存在すること、出土した炉壁片は腐蝕痕が無く、遠方から流出してきたとは考えにくい点などを考慮すると、本遺跡周辺に古代製鉄炉が存在していた可能性が指摘できる。

今回の調査で、高崎市域から古代製鉄炉の炉壁片が出土したことは大きな成果である。今後、周辺の調査が進展することにより、古代社会における製鉄炉のあり方が解明されて行くことを期待したい。

(註1) 世界歴史よりご教示を蒙った。

(註2) 区内内(5号住居)の小鍛冶遺構で、遺構中央部に炉が1基、周辺に3基のピットと作業台の石が1か所確認されている。ピット内からは、ルツボ・割口・磁片・鉄製品・出灰皿1~2片、の焼物が出土している。築造時期は10世紀後半と報告されている。

1号堀について

北隣約20mを東流する井野川に沿ってほぼ直線的に東西に走る堀を確認した。この堀は幅が4.60~4.00m、深さ1.15cmの築研状の堀で、北側の傾斜に比べ南側は比較的緩やかな傾斜を持つ。堀の堆積中には、流水痕は認められないことから灌漑用水として使用された可能性は極めて低いものと思われる。下層の12・14層には、僅かな溝水痕が認められたが季節的または、一時的な灌水と思われる常時、空堀であった可能性が高い。遺物は上(1~5層)・中層(6~11層)から出しており、特に堀の埋め戻し上である中層から出土した遺物は、14世紀~15世紀前半までの軟質陶器(鉢・片丸鉢・内耳銅片)にほぼ限定されていることから、堀が機能していた年代を示すものと思われる。以上の特徴から、この1号堀は中世館の堀の可能性が考えられる。

そこで館内について考えてみると、今回確認した1号堀は東西に延びる一辺のみの確認であるためどちらの方向に館内が存在したかは不明である。確証はないが幾つかの条件を基にその可能性について考えてみることにした。①1号堀の南側部分には、ほぼ同時期(多少新しい時期の可能性を残す)の土坑が2基確認されており、南側調査区外に建物などの関連施設が存在する可能性が考えられる点、②1号堀の北隣約20mには井野川が東流し、館が1号堀の北側に展開されている可能性が低い点、③本遺跡の東約500mに位置する村北・矢島前・村東遺跡(村北館)では、方形館の北東部分の館内に堀と接するように小規模な3号溝が並走しており、この配置関係が本館の小規模な1号溝が1号堀に沿って並走する関係と類似する。これらを勘案すると、本館の館内は、1号堀の南側調査区外に展開されている可能性が指摘できる。この1号溝が館の内部施設であるとする、館内の排水施設の可能性が挙げられる。上層については、本館は後世の掘削により土塁の基底部やその痕跡を確認することができなかったが、土塁が想定される堀の南側(館内)には前述したとおり1号堀と並走する1号溝が配置されていることから、土塁が構築されていない可能性と、構築されていない時期があった可能性の2種類が考えられる。このような類例は、天田館や村北館に求めることができる。各報告書には土塁の有無について記載されていないが、天田館を見ると堀のすぐ内際には掘立柱建物や井戸が構築されており、土塁が構築できるスペースが確保されていない。また、上記でも述べたが村北館でも北東部分のみ堀内際と並走する3号溝が接するように構築されており、上層を構築するスペースがなく、双方の館とも状況は異なるが土塁が構築されていない可能性が指摘できる。本館も、その類例の一つに値する可能性が考えられ、今後の検討が必要と思われる。本館の構築時期は不明だが、遺構の特徴や遺物の年代層等から、15世紀前半頃までには衰壊し廃絶された館と考えられる。

今回の調査で、中世城館の一端を垣間見ることができた。今後、周辺の調査が進展することによって、井野川流域を中心とした中世社会が次第に明らかになるものと思われる。

抄 録

フ リ ガ ナ	カミオオイル カワオシイセキニ
書 名	上人類・川押遺跡2
副 書 名	携帯電話用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第247集
編 著 者 名	有限会社 高澤考古学研究所 高階 敏昭
編 集 機 関	高崎市教育委員会
編 集 機 関 所 在 地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発 行 年 月 日	西暦2009(平成21年)年8月31日

所収 遺跡	所在地			北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
	市町村	遺跡番号					
上大類・川押遺跡2	高崎市 上大類町川 押 64番地	102020	439	36° 139° 20' 02' 16' 17"	20090420 ～ 20090424	49㎡	携帯電話用無線基地局の鉄塔建設
所収 遺跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
上人類・川押遺跡2	旧河川跡	古墳	旧河川跡	土師器		井野川と並行する旧河川跡を確認。7世紀代の土師器が少量出土。覆土にはFP軽石が含まれる。	
	製鉄炉	古代	—	製鉄炉の炉壁		1号基から製鉄炉の炉壁が出土。	
	屋敷	中世	堀1条 溝1条 土坑2基	炊飯陶器(片1鉢・鉢・内耳鍋) 灰輪陶器・土師器・須恵器・埴輪		15世紀前半に埋没したのと考えられる中世館の地跡を確認。 堀の南側に小規模の1号溝が並走する。	

参考文献

高崎市 2000 新編「高崎市史」通年編2・中世

高崎市 1996 新編「高崎市史」資料編3・中世1

群馬県史編さん委員会 1986 「群馬県史 資料3 中世3」 群馬県

神戸聖昭・中村茂 1985 「村北・矢島前・村東遺跡」 高崎市教育委員会61集

神戸 聖昭・福田敬一・茂田勝健・清水豊・江原邦博 1985 「上人類町西遺跡」 高崎市教育委員会75集

長井正欣 1997 「高崎情報出土遺跡」 高崎市遺跡調査会第55集

結城千尋・神戸聖昭 1984 「天田II遺跡」高崎市教育委員会第48集

神戸聖昭・中村茂 1986 「矢島村西・増殿遺跡」高崎市教育委員会第71集

結城千尋・神戸聖昭・茂田勝健・竹内達 1983 「天田・川押遺跡」高崎市教育委員会第41集

笹澤泰史 2008 「研究紀要26 群埋文2号炉及び3号かによる製鉄炉の製鉄実験報告」群馬県埋蔵文化財調査事業団

笹澤泰史 2007 「研究紀要25 群馬県における古代製鉄遺跡の出現と展開」群馬県埋蔵文化財調査事業団

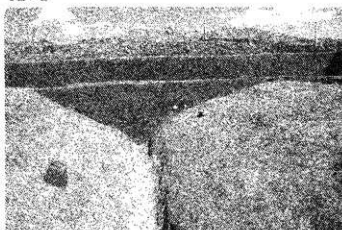
写 真 图 版



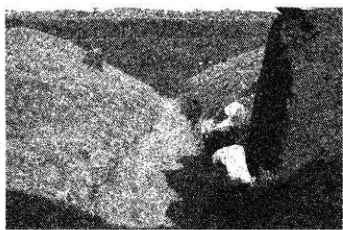
遺跡遠景 北東から



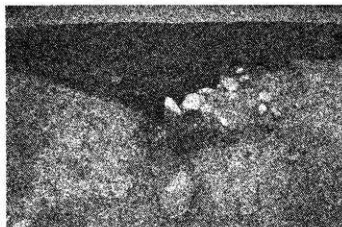
調査区全景 北西から



1号堀 セクション 西から



1号堀 底面状況 西から



1号堀 礫出土状況 西から



1号堀 鉢・礫出土状況 東から



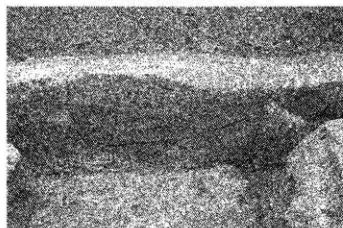
1号堀 鉢出土状況 南西から



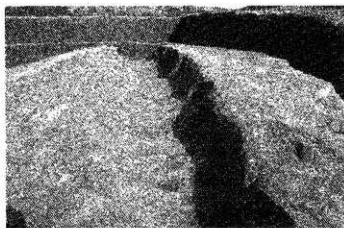
1号堀 片口鉢出土状況 南西から



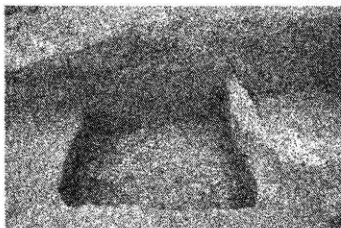
1号堀 鉢出土状況 北西から



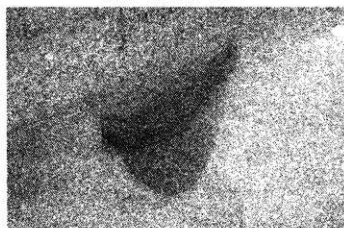
1号溝 セクション 西から



1号溝 底面状況 西から



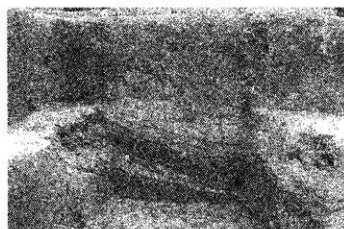
1号土坑 全景 北から



2号土坑 全景 北東から



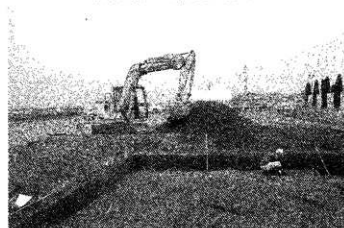
旧河川跡 堆積状況 北西から



旧河川跡 堆積状況 北から



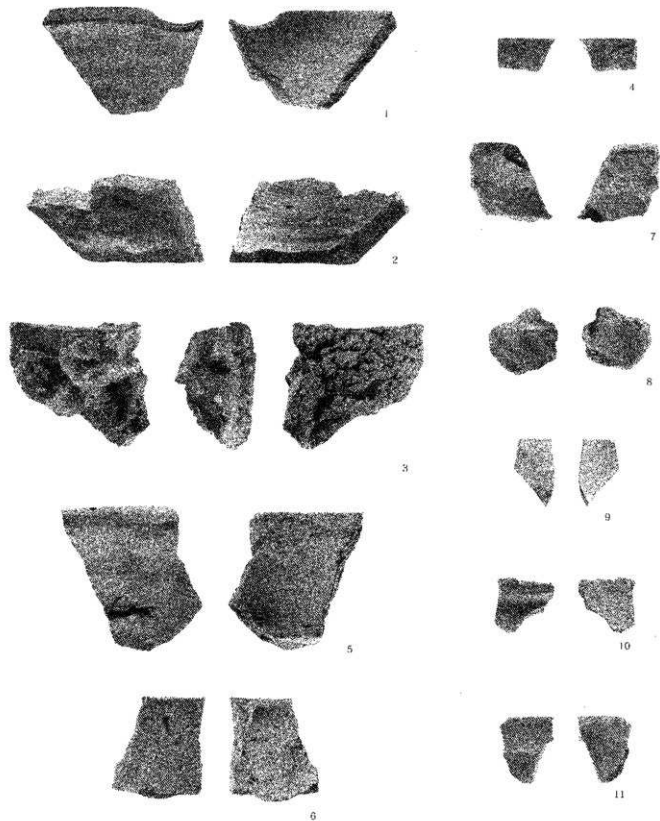
基本堆積土層1 (調査区北東隅) 南から



重機稼働状況 北から



作業風景 南東から



出土遺物写真 (1/3)

— 上大類・川押遺跡 2 —
高崎市文化財調査報告書第 247 集

平成 21 年 8 月 25 日 印刷

平成 21 年 8 月 31 日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会
印刷・製本 細谷印刷有限公司